

2021 JUA/AUA Resident Program 参加報告

占 部 文 彦 (東京慈恵医大)



この度、2021年9月10日から9月13日にオンラインにて開催された米国泌尿器科学会 (AUA) annual meeting 2021 に JUA/AUA resident program からの派遣として参加させて頂きました。

本プログラムは、JUA と AUA の国際交流事業の一環として行われており、今回で12回目になります。本来であれば、学会参加費と宿泊費をサポートのもと、レセプションやレジデントボウルなど期間中に開催されるイベント等にも現地参加出来るというものでしたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大により自宅からのweb参加となりました。

2020年はAUA annual meeting 自体が中止となっていたため、私自身は2年ぶりの参加となりましたが、web参加のいいところもございました。まず、会場から会場へ移動する必要がなく、さらには同時並行して行われる講演にもオンデマンドを利用して、拝聴することが出来ました。さらに、聞き取れなかったところは繰り返し見

直すことが出来たので、特に興味のある一つ一つの演題をしっかりと消化することが出来ました。しかしながら、直前に完全web開催が決まったこともあり、特に質疑応答などは現地開催のものに比較して迫力にかけ、また演者との距離感も否めず、これらの点は現地開催学会での醍醐味だったのだと改めて感じました。

個人と致しましては、本学会の Early Career Young Investigators showcase にて幸いにも1st placeを頂くことが出来ました。このセッションは泌尿器疾患の若手研究者が、各々の研究テーマを8分間プレゼンテーションするというresearch competitionで、今回はJUAよりご推薦して頂きました。学会期間中、本邦から海外への渡航は困難な状況だったので、直前で現地開催から完全web開催に変更にならなければ参加すら出来なかったもので、その点では運にも恵まれておりました。

また、2022年2月にAUA resident programとして、webにて各国の先生方と意見交換をする機会を頂きました。特に症例検討では、各先生が症例を持ち寄り、治療法や方針に関して討論する機会を頂きました。Web開催ということもあり、各先生と直接お話しする機会にはございませんでしたが、キャリア構築などの講義を頂き、非常に勉強になりました。もしもう一度チャンスを頂けるのであれば、是非現地にて参加させて頂きたいです。

最後になりますが、本交換プログラムにご推薦頂きました当教室の颯川晋教授をはじめ、このような機会を与えてくださった国際委員会 委員長 市川智彦先生、日本泌尿器科学会事務局様にこの場をお借りして深謝申し上げます。

